

# 信州学び円卓会議について

県民文化部県民の学び支援課

## 1 設置目的

変化が激しく先行不透明な時代にあって、これまでの一律一様の学びから児童生徒一人ひとりのニーズ、個性、認知・発達特性に応じた「個別最適な学びへの転換」が求められている。

こうした現状を踏まえ、有識者、教育実践者等で「長野県の子どもたちにとって最適な学びのあり方」をテーマに議論を進めながら、県民一人ひとりが学びについて自分事として考える機運を醸成するとともに、それぞれの主体における取り組みに繋げていく。

## 2 第1回信州学び円卓会議概要

### (1) 日時等

日時 令和5年9月1日（金）13:20～16:00

会場 県立長野図書館信州・学び創造ラボ

構成員 座長 荒井 英治郎 信州大学准教授

学識経験者、学校関係者、教育関係者、市町村長、市町村教育委員会関係者 14名  
(知事、教育長はオブザーバー参加)

目的 テーマ「長野県の子どもたちにとって最適な学びのあり方」への思いの共有

### (2) 意見概要

- ・ 個別最適な学びを実現することを教育に関する制度、仕組みが妨げている
- ・ 地方創生の鍵は教育であり、いろいろなことに挑戦できる多様な学びの選択肢が必要
- ・ マネジメント力のある校長の主体的な学校自治を保障すべき
- ・ 魅力ある学校づくりには教員がやりたいことを見つける時間も必要であり、そのためには教員の働き方改革が必要

### (3) 議論のまとめ

- ・ 教育に関するこれまでの当たり前を変えていくこと
- ・ 学校の自治、先生方の自由度を保障するため、教育システムのあり方を問い直していくこと

### (4) 今後の予定

第2回信州学び円卓会議を2月上旬開催予定



## 3 県民意見交換会について

第1回信州学び円卓会議の議論を受け、様々なテーマによる県民意見交換会を県内各地で開催。円卓会議のメンバーが、生徒、保護者、教員等の当事者と意見交換を実施し、その議論の内容を第2回信州学び円卓会議につなげていく。

(1) 開催実績

第1回

日時	テーマ	次世代に続く中山間地域での学びづくりとは	対象	根羽村、その他中山間地域での学びに関心・関わりのある方
9月23日(土) 13:30~16:30 (根羽村役場 やまあいホール)	[意見概要] ・ 学校を地域に開き、大人も学校で児童生徒と共に学ぶ環境が作れないか ・ 根羽村では小規模校の特性を活かして学年を超えた、自由度の高い学びを行うことができるのではないか ・ 中山間地域において、先生たちがやりたいことをできるようになるためには、適正な教員配置などの課題がある			

第2回

日時	テーマ	子どもの居場所と学びの継続について	対象	居場所・フリースクール関係者、児童・生徒、保護者、教員等
10月18日(水) 13:00~17:00 (松本市勤労者 福祉センター)	[意見概要] ・ 学校、フリースクール関係者、保護者、行政がもう一步踏みこんで話せる場があるとよい ・ より多くの保護者や生徒に対して、「学校に行かなくても大丈夫」という価値観を広げ、色々な選択肢があることを知ってもらうことが必要 ・ 学校以外の学びの場、支援機関の認知度が低く、情報発信が必要			

第3回

日時	テーマ	中学生・高校生・保護者が望むこれからの高校での学びのあり方	対象	中学生、高校生、保護者、教員等
10月25日(水) 15:30~17:30 (松本県ヶ丘高校)	[意見概要] ・ 教員も生徒も自由度が少なく、主体的に取り組めることが限られている ・ 学校は自分の「好き」を突き詰められる場所であり、それぞれの夢や将来に合った授業を取り入れてほしい ・ 生徒と教員がじっくり話せる環境が重要			

第4回

日時	テーマ	教員の理想とする、これからの長野県での学びとは	対象	教員、その他の教育関係者等
11月14日(火) 15:00~16:30 (信濃教育会館)	[意見概要] ・ 子ども達が興味関心を持ち自発的に学ぶことを実現するには、教材研究をする時間の不足、保護者への対応に追われる、教員の人数不足、へき地の学校への教員配置等の課題がある ・ 子ども達が学びたいことに対して教師が伴走して支えることが理想ではあるが、受験等保護者の関心と両立できるか疑問 ・ 教師や子どもたちが失敗を恐れずに様々なことにチャレンジできる機運の醸成が必要			

第5回

日時	テーマ	私たちが考える理想の「学びの環境」とは	対象	軽井沢風越学園の生徒、教員、保護者等
12月6日(水) 13:30~15:30 (軽井沢風越学園)	[意見概要] ・ 生徒が自分で学びたいことを見つけ、異学年で共に学びながら思ったことを発言し、互いに肯定し合う環境が重要 ・ 地域の大人と関わり、大人と子どもという枠に縛られずに互いに学ぶことができる ・ 学びの場を学校に限定する必要はなく、一人ひとりの得意分野が評価される仕組みがあるとよい			

(2) 今後の予定

第6回 テーマ：調整中

令和6年1月17日(水) 大学生